

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 29 期

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

株式会社 日高振興公社 第29期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、依然として小売業やサービス業を中心に企業経営に大打撃があり、兵庫県内の倒産件数は、2022年度354件で前年度比13%増となり、3年ぶりに前年度を上回りました。その中でも、新型コロナウイルス関連が91件、4分の1を占めました。コロナ対策で中小企業者等に対し各種支援制度が設けられましたが、原料価格の高騰や円安など外部環境の変化が大きく影響したと思われます。加えて、今後の金融政策や物価高、賃上げによる人件費増など経営を取り巻く環境は、さらに厳しさを増しています。

2022年度の神鍋高原の夏季観光客の入込状況は、教育・文化・スポーツ合宿の再開により入込が増え、約12万2千人（前年度約12万人）、前年度比102%となりました。一方で冬季は、降雪に恵まれず、神鍋高原スキー場は約8万4千人（前年度約14万人）、前年比60%となりました。弊社の12月から3月までの総売上は、5,805万円（前年5,951万円）、前年比98%となりました。その内、経済支援クーポンは1,328万円（前年1,464万円）、前年比91%となりました。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、取り組んで参りました。

従業員の職務能力向上を図るため、県内外の道の駅や直売所、加工施設の視察研修や意見交換、山陰海岸ジオパーク内の地元企業・高等学校・生産者等との連携強化により、店舗展開（坪単価・客単価アップ）や「個性ある道の駅づくり」のための研修を行いました。

また、毎月開催している社員会議では、各部門ごとに経費実態（部門別管理表・ランニングコスト推計表等）を月次検討し、部門別の課題の抽出を行いました。

さらに、新規イベント計画・新商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施しました。特に、当事業年度は経費削減、効率的な仕入れの実施、アフターコロナに向けた運営等についても全従業員で取り組みました。

○来客数

道の駅「神鍋高原」	107,962人	（前年度比：102%	2,108人）
神鍋温泉ゆとろぎ	58,651人	（前年度比：96%	△2,423人）

結果、当事業年度における業績は、

売上高	183,593千円	（前年度比：106%	11,097千円）
営業利益	△5,014千円	（前年度比：—%	△2,027千円）
経常利益	△2,266千円	（前年度比：—%	△4,568千円）
当期純利益	△2,476千円	（前年度比：—%	△4,048千円）
		（前年度：1,572千円）	となりました。

(1) 道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

当事業年度は物価高騰の影響もあり、仕入れの見直しや価格改定など、年間を通して対応に迫られました。旅行客の出控えがある中でも、ひょうごを旅しようキャンペーンや豊岡市プレミアム付き応援商品券等、経済支援クーポンの利用が 11,902 千円（前年度比 93%）となり、売店部門の売上全体の 10%を占めました。

情報発信として、テレビでは、5 月に関西テレビ「フットマップ」にて神鍋高原キャベツが紹介され、6 月に開催した「神鍋高原キャベツまつり」は、過去最高の賑わいを見せました。また、8 月に MBS テレビ「おはよう朝日です」にて神鍋高原スイカが紹介され、同月開催した「神鍋高原スイカまつり」も多くのお客様で賑わいました。

商品開発として、7 月に神鍋高原キャベツを使用した「神鍋高原キャベツ焼き」、12 月に山陰海岸ジオパーク認証商品として、神鍋産コウノトリ育むお米と竹野町産花房商店のしょうゆを使用した「神鍋ぼんせん」の販売を開始しました。また、神鍋産ピオーネを使用した「神鍋ぶどうシャーベット」や但馬農業高校の生徒が栽培したトマトを使用した「トマトシャーベット」を販売しました。

新たな取り組みとして、但馬北部の固有種である「大美濃柿」を中心に 30 年以上つるし柿を作り続けてきた「神鍋つるし柿生産組合」と連携し、2 月に「第 1 回神鍋つるし柿まつり」を開催し、多くのお客様で賑わいました。また、日高農林産物加工研修所では、約 3 年ぶりにファミリー向けのみそ作りワークショップを開催し、好評を得ました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」でしか購入できない商品（PB 商品）と位置付け、他店舗との差別化を図りました。

○ほんまもん神鍋	年間販売数：10,700 個	売上金額：6,950 千円
○高等学校商品	年間販売数：7,092 個	売上金額：1,972 千円
○キャベツチップ	年間販売数：2,899 個	売上金額：1,401 千円
○よりどり 3 個セット	年間販売数：2,721 個	売上金額：1,836 千円
○日高みそ関連商品	年間販売数：2,013 個	売上金額：974 千円

※年間販売数量の多い順番に並べています。

② 飲食部門

毎年 7 月・8 月に開催する「全但バス神鍋線利用促進イベント」の「神鍋 BeerNight」を開催し、客数 170 名、売上金額 458 千円、バス乗客 62 名、昨年より 125 名増、売上金額 336 千円増、前年比 375%と少しずつ賑わいを戻してきました。また、12 月に神鍋フェアや 3 月に神鍋マリアージュなど少しずつイベントを増やしました。

情報発信として、紙面では「CO-OP ステーション」に神鍋清流サーモンフライ定食、「まっふる道の駅ドライブ」に但馬牛肉そばなどの料理が掲載されました。テレビでは、関西テレビ「報道ランナー」にて店長が取材を受け、神鍋清流サーモンバーガーが紹介されました。

平日の利用促進として、神鍋火山カレーや神鍋釜めしセットなど、「神鍋産コウノ

トリを育むお米」を使用した新商品の販売、マリオットホテルの11月オープンに併せ、モーニングセットや神鍋温泉ゆとろぎでの弁当・惣菜販売、週末及び繁忙期に夜営業を開催し、効果はコロナの影響等の延長で厳しい状況でした。

土、日、祝日のランチビュッフェは5月から営業自粛を解禁し、客数11,340名（前年比233%）、売上金額12,464千円（前年比243%）となり、昨年より客数6,463名増加、売上金額7,328千円増加となりました。

（2） 神鍋温泉ゆとろぎ

当事業年度は、物価高騰の影響もあり、ガス代が前年度比194%、光熱費も前年度比171%と経営を圧迫しました。経費削減を目指し、木質ペレットの使用やガス燃焼時間の短縮によりガス使用量を前年度比75%削減しましたが、それ以上に価格高騰の影響が大きく、大幅な経費削減には至りませんでした。

また、スキー場は前年に比べ積雪量が少なく、平均営業日数61日（前年度比77%）となり、「スキーリフト券利用者割引」の利用者も5,303名（前年比60%）と前年より減少しました。定番の「JAFカード会員割引」7,689名、「あいカード会員割引」4,794名は継続し、新規協定として8月から「神鍋高原キャンプ場利用者割引」3,449名、11月から「フェアフィールド・バイ・マリオット・兵庫神鍋高原利用者割引」586名など、提携した割引サービスには一定の効果がありました。

定番商品として、今年で3年目を迎えた「入浴料とフェイスタオル、バスタオル」が付いた入浴セットを2,127セット販売し、湯外商品の販売にも注力しました。また、サウナ利用客の要望により、10月からサウナグッズ（サウナ専用ハット・マット・タオル）の販売も開始しました。

新たな取り組みとして、9月から利用者が少ない月曜日と木曜日の13時から15時の時間帯に入浴料半額タイムサービスを実施し、3,347名の利用がありました。ただし、飲料や食品等の入浴料以外の商品を購入いただき、結果的に客単価を落とすことなく、新規顧客や常連客への還元にも繋げることができました。

2 事業実績

売上高の推移

単位：千円

区 分	第 25 期	第 26 期	第 27 期	第 28 期	第 29 期
売店部門	116,322	107,315	113,343	107,367	117,447
飲食部門	36,015	32,510	17,835	21,622	24,576
温泉部門	38,382	37,654	33,477	39,483	37,343
市受託料	4,006	3,954	3,969	4,024	4,227
合 計	194,725	181,433	168,624	172,496	183,593

営業成績、財産状況の推移

単位：千円

区 分	第 25 期	第 26 期	第 27 期	第 28 期	第 29 期
経常利益	4,109	△3,195	3,592	2,302	△2,266
当期純利益	3,898	△2,600	3,304	1,572	△2,476
総資産	37,761	34,296	70,317	72,338	70,580
純資産	25,196	22,597	25,901	27,472	24,996

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	36,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	720 株
うち豊岡市保有分	400 株

(3) 役員の状況

役職名	役員名
代表取締役	岡 森 且 哉
専務取締役	久 田 喜三郎
取 締 役	小 谷 士 郎
取 締 役	細 谷 文 夫
取 締 役	村 上 勝 幸
取 締 役	岡 藤 泰 明
監 査 役	坂 本 成 彦
監 査 役	玉 置 孝 至

(4) 従業員の状況

区 分	人 数
正 社 員	5 人
パート社員等	15 人
合 計	20 人

決 算 報 告 書

第 29 期

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野59-13

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

令和 5年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 67,119,140】	【流動負債】	【 15,584,404】
現金及び預金	62,123,791	買掛金	1,605,445
売掛金	3,282,475	受託未払金	3,456,071
商 品	549,782	未 払 金	8,383,483
原 材 料	480,348	預 り 金	132,505
貯 蔵 品	355,032	預 り 敷 金	100,000
未 収 入 金	84,312	法人税等充当金	90,500
仮 払 金	243,400	未 払 消 費 税	1,816,400
【固定資産】	【 3,461,251】	【固 定 負 債】	【 30,000,000】
(有形固定資産)	(3,275,717)	長期借入金	30,000,000
建 物	2,513,226	負債の部計	45,584,404
建物付属設備	2	純資産の部	
車両運搬具	2	【株主資本】	【 24,995,987】
工具器具備品	762,487	[資 本 金]	[36,000,000]
(無形固定資産)	(185,534)	[利益剰余金]	[Δ11,004,013]
ソフトウェア	185,534	利益準備金	9,000,000
		(その他利益剰余金)	(Δ20,004,013)
		繰越利益剰余金	Δ20,004,013
		(うち当期純利益)	(Δ2,476,222)
		純資産の部計	24,995,987
資産の部計	70,580,391	負債・純資産の部計	70,580,391

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 4年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 5年 3月31日

科 目	金 額	
【売 上 高】		
売 店 売 上	117,447,278	
市事業委託料等	4,227,152	
レストラン売上	24,576,148	
温 泉 売 上	37,342,883	183,593,461
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	934,841	
仕 入 高	83,033,578	
材 料 費	9,939,216	
合 計	93,907,635	
期末棚卸高	1,030,130	92,877,505
売 上 総 利 益		90,715,956
【販売費及び一般管理費】		95,729,593
営 業 利 益		Δ5,013,637
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	649	
雑 収 入	2,746,662	2,747,311
【営 業 外 費 用】		
固定資産除却損	2	2
経 常 利 益		Δ2,266,328
税引前当期純利益		Δ2,266,328
法人税等充当額		209,894
当 期 純 利 益		Δ2,476,222

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 4年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 5年 3月31日

科 目	金 額	
役 員 報 酬	4,313,800	
給 料 手 当	30,686,551	
福 利 厚 生 費	5,495,012	
雑 給	6,965,596	
シルバー委託費	2,066,455	
広 告 宣 伝 費	1,798,418	
運 賃	101,940	
燃 料 費	8,684,675	
衛 生 費	5,057,459	
水 道 光 熱 費	15,681,227	
会 議 費	38,522	
事 務 費	1,354,786	
消 耗 品 費	3,204,081	
地 代 家 賃	38,100	
支 払 保 険 料	599,170	
修 繕 費	1,180,028	
租 税 公 課	4,260,600	
減 価 償 却 費	873,551	
接 待 交 際 費	177,473	
旅 費 交 通 費	56,214	
通 信 費	241,419	
支 払 手 数 料	2,094,409	
賃 借 料	299,542	
諸 会 費	397,215	
購 読 費	40,800	
雑 費	22,550	
合 計		95,729,593

株主資本等変動計算書

株式会社 日高糧興公社

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

(単位：円)

	株 本				資 本				株 主 資 本 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本		利 益		利 益		利 益				
	資 本 金	資 本 準 備 金	資 本 準 備 金	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	利 益 準 備 金	利 益 準 備 金			
当期首残高	36,000,000				9,000,000	Δ17,527,791	Δ2,476,222	Δ2,476,222	27,472,209		27,472,209
当期変動額									Δ2,476,222		Δ2,476,222
当期純利益									Δ2,476,222		Δ2,476,222
当期変動額合計									Δ2,476,222		Δ2,476,222
当期末残高	36,000,000				9,000,000	Δ20,004,013	Δ2,476,222	Δ2,476,222	24,995,987		24,995,987

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		利 益 剰 余 金 合 計
	利 益 準 備 金	利 益 剰 余 金	
当期首残高	9,000,000	Δ8,527,791	Δ8,527,791
当期変動額		Δ2,476,222	Δ2,476,222
当期純利益		Δ2,476,222	Δ2,476,222
当期変動額合計	9,000,000	Δ20,004,013	Δ11,004,013
当期末残高			

個 別 注 記 表

自 令和 4年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 5年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品・・・最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・・・平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に

取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産・・・定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理・・・税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額・・・37,341,312円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数・・・720株

当事業年度末日における自己株式の数・・・・・・・0株

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額・・・・・・34,716円64銭

1株当たりの当期純利益・・・△3,439円19銭